

平成29年度

全国学力・学習状況調査の  
結果について



平成29年12月

海老名市立杉久保小学校

## 目次

|                          |      |
|--------------------------|------|
| 全国学力・学習状況調査について          | P. 1 |
| 「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 2 |
| 「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」 | P. 3 |
| 「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」 | P. 4 |
| ご家庭で取り組んでいただきたいこと        | P. 5 |



## 資料 学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。  
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

### 【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

### 【学校生活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

### 【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

### 【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

### 【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家からは、授業参観や運動会などの学校行事に来る

### 【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

### 【基本的な生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

# 全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成19年度に始まった全国一斉の調査です。平成22～24年度は抽出調査(平成23年度は震災の関係で実施を中止)でしたが平成25年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

## ◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ◆ 調査の対象

- 国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒
- ・ 小学校第6学年
  - ・ 中学校第3学年

## ◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

### 【小学校】

- 国語A・算数A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・算数B (主として「活用」に関する問題)

### 【中学校】

- 国語A・数学A (主として「知識」に関する問題)
- 国語B・数学B (主として「活用」に関する問題)

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

## ◆ 調査実施日

平成29年4月18日(火)

海老名市の結果は  
こちらから



# 国語に関する調査結果

## 国語 A

(主として「知識」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「書くこと」では、目的や意図に応じて、内容の中心を明確にして、詳しく書くことができている。
- 「漢字の書き」では、特に「希望」をよく書くことができている。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、ことわざの意味を理解して、「三度目の正直」という言葉を自分の表現に用いることができている。

### 《努力を要する所》

- 「書くこと」では、手紙の構成を理解し、後付けを書くことができていない。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、ことわざの意味を理解して、「もちはもち屋」という言葉を自分の表現に用いることができていない。
- 俳句の情景を捉え、話し合いの様子の内容に沿って、どのような観点で俳句を紹介しようとしているのか捉えることができていない。

## 国語 B

(主として「活用」に関する問題)

### 《優れている所》

- 「書くこと」では、目的に応じて、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことができている。
- 「読むこと」では、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉え、より優れた叙述を選択することができる。

### 《努力を要する所》

- 「話すこと・聞くこと」では、動画を見る目的を捉えることを通して、目的や意図に応じた言葉遣いを適切に選ぶことができていない。
- 「グループの話し合いの様子」の場面では、目的や意図に応じて、話の構成や内容を工夫し、場に応じた言葉遣いで自分の考えを書くことができていない。

## これまでの取組から

- 「漢字の読み・書き」を国語学習の基礎とし、授業や家庭学習等で反復して練習する場面を多く設けてきた。実際に文や文章の中で正しく漢字を使うなど、漢字を児童自ら活用し、応用する技能を高めていく必要がある。
- 「書くこと」では、相手や目的に応じたさまざまな表現方法を学習してきた。相手や目的に応じた表現方法を自ら取捨選択し、活用する経験を多く積ませる必要がある。

## 今後の具体的な取組について

- 「漢字の読み・書き」では、日頃から積極的に活用する意識をもたせる。例えば、授業では作文、新聞・リーフレット作りなどで積極的に漢字を使わせる指導をし、家庭学習では日記・短文作り等で経験を多く積ませる。
- 「書くこと」では、「読むこと」と関連付けて、国語辞書や漢字辞典の利用を習慣づけたり、読書や新聞の活用をしたりする指導を継続していく。



# 算数に関する調査結果

## 算数 A

(主として「知識」に関する問題)

### 《優れている所》

○「量と測定」では、示された平行四辺形の面積の、半分の面積である三角形を正しく選ぶことについてよく理解できている。

○「数量関係」では、二次元表の合計欄に入る数を書くことがよくできている。

### 《努力を要する所》

○「数と計算」では、 $5 \div 9$ の商を分数で表すことができていない。商に表す時に、除法の被除数、除数と商の分子、分母の関係の理解が定着していない。

○「量と測定」では、円を使って正五角形をかくとき、円の中心の周りの角を何度ずつに分割すればよいかできていない。

## 算数 B

(主として「活用」に関する問題)

### 《優れている所》

○「数と計算」では、示された条件を基に、適切な式を立てることがよくできている。

○「数量関係」では、示された式の中の数が表わす意味を書き、その数が表のどこに入るかを理解している。

### 《努力を要する所》

○飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を、立式したり選択したりすることができていない。

○身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述することができてない。

## これまでの取組から

○校内研究を通して、具体物・半具体物を使って実感を伴った活動をしたり、式や図、言葉などを使って自分の考えをもち、発表する場を多く設けたりしてきた。そして、朝学習や家庭学習等で復習する習慣をもたせた。基礎的知識・技能を定着させ、問題場面の的確に捉える文章読解力等を高めていく必要がある。

## 今後の具体的な取組について

○問題場面の的確に捉えて、判断の理由を数学的に表現する力を高めるために、校内研究を通して「式、図、言葉に関連づけて説明する」ことを引き続き大切にしていく。

○日常生活の事象を、既習事項を活用して数学的に解釈し、事柄を適切に判断したり、判断した理由を数学的に表現したりする場面を、学習の中に意図的に取り入れる。

○具体的な操作や実験・実測などの活動を工夫し、量感をつかむことができるようにする。



# 児童質問紙の結果より

## 学習について

### 《よかった所》

○「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか」という設問では、当てはまる、どちらかといえば、当てはまると答えた児童の割合は県や全国の平均を約10ポイント上回っている。

○「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習に取り組んでいますか」という設問では、当てはまると答えた児童は75%と県や全国の平均を上回っている。

### 《課題と思われる所》

○自分の考えを他の人に説明したり文章に書いたりすることは難しいと思う児童の割合が高く、書くことへの課題がある。

○国語の勉強が好きだという児童の割合が、県や全国の平均より10ポイント以上低く、国語に対する苦手意識がみられる。

○今回の調査（国語・算数）に取り組む時間が足りなかったと答える児童の割合が高く、時間内で処理する力に課題がある。

## 生活について

### 《よかった所》

○「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか」という設問では、当てはまると答えた児童は90%と県や全国の平均を上回っている。

○「自分にはよいところがあると思いますか」という設問では、当てはまると答えた児童は非常に多く、どちらかという当てはまると答えた児童と合わせて81%と県や全国の平均を上回っている。

### 《課題と思われる所》

○平日における家庭での学習時間が30分未満の児童が26%、休日全くしない児童が約19%である。また、家で自分で計画を立てて勉強をする習慣がない児童が50%と、県や全国の平均と比べて約15ポイント低い。これらより、生活習慣と学習習慣ができていない児童の割合が高いことがわかる。

○携帯電話やスマートフォンの使い方について、家の人と約束したことをきちんと守れている児童が少なく、節度をもった行動に課題がある。

## これまでの取組から

○日々の学習の中で、話し合い活動や調べ学習を多く取り入れてきたため、意欲が向上している。今後も自分の考えを文章にまとめたり、発表したりするなどの、言語活動を充実させていく。

○朝読書や、PTAの協力を得た本の読み聞かせなど、本に親しむ機会を大切にし、継続していく。

## 今後の具体的な取組について

○家庭学習の充実を目指し、学年の発達段階を踏まえ、体系的な学習のあり方を検討する。その際、保護者の理解と協力を得るため、連携を十分に図るようにする。

○携帯電話やスマートフォンに関する子どもへの「ネチケツ」を学ぶ機会を設けるとともに、保護者へ様々なネットトラブルの現状や気をつけたいことを伝えていくようにする。



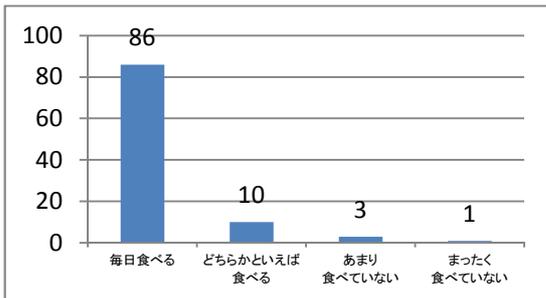
# ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成29年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

## 1 毎日、朝食をとりましょう。

朝食は一日の活動の大切なエネルギーです。しっかりと朝食をとらせ、登校させてください。

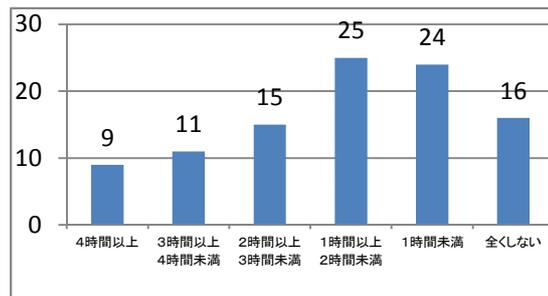
朝食を毎日食べていますか。



## 2 テレビゲームやPC・スマホゲームなど、時間を決めてやりましょう。

ゲームをする時間を決めるなどをして、家族とのコミュニケーションの時間を増やすことも大切です。

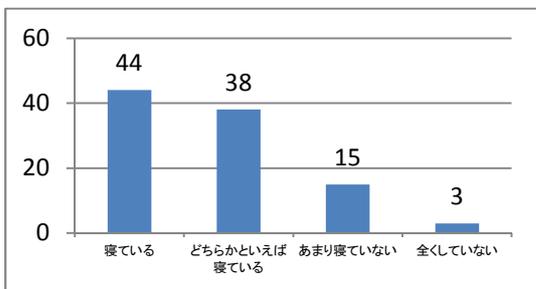
普段一日どれぐらいの時間ゲームをしますか。



## 3 睡眠時間の確保を。

体をつくる成長期の子どもたちにとって、睡眠は大切です。

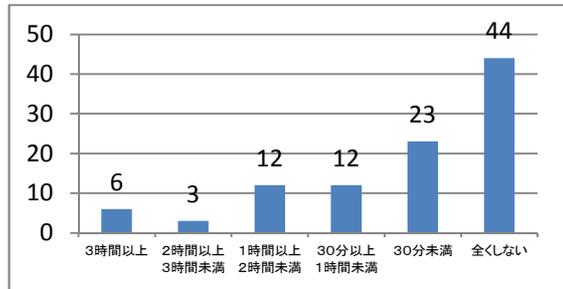
毎日、同じぐらいの時刻に寝ていますか。



## 4 携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをするときのルールを家庭で決めましょう。

携帯電話やスマートフォンなどを安易に与えず、与える際には必ず家庭のルールを決めましょう。

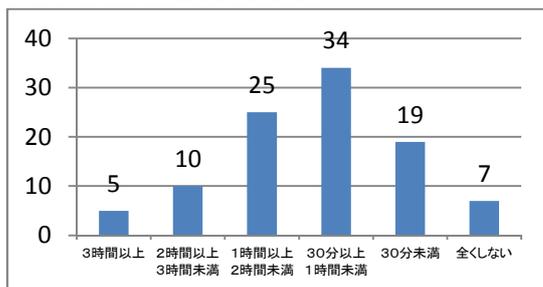
普段一日あたりどれぐらいの時間、携帯やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。



## 5 毎日、家庭学習の時間を決めて勉強しましょう。

毎日の積み重ねが学習の定着につながります。

普段一日あたりどれぐらいの時間、勉強をしますか。(塾・家庭教師を含む)



## 6 地域とのつながりを大切にしていきましょう。

子どもは地域で育ちます。今後も地域での催しには進んで参加をうながしてください。

今住んでいる地域の行事には参加していますか。

